

たんぽぽ通信

Dandelions

2024. 6

始良市立加治木幼稚園便り

PHONE 62-2502

FAX 62-2524

コミュニケーションで大事なのは

『言うこと』と『態度』を一致させること

例えば、正しいことを言っているのに、子ども（相手）に全く通じないということはありませんか。また、「同じことを言っているのに、あの人が言うと言っていて、私が言うとなぜか聞こうとしない。」といったことはないでしょうか。

実は、このことには理由があります。コミュニケーションでは、相手が『何を言っているか』より『どのように言っているか』の方に、より強く影響を受けるといわれているからです。つまり、人は、言われている言葉の内容より、表情や声のトーンや感じで、相手の気持ちを察しているらしいのです。

このことを数値化したメラビアンの法則というものがあります。それによると、コミュニケーションするときの影響の割合は、話の内容（7%）、話し方の口調や早さといった耳からの情報（38%）、態度や顔の表情など目からの情報（55%）とされています。

例えば、子どもに「思うようにしなさい。」と言って怖い顔をしたらどうでしょう。「今日何をしたか教えて。」と言いつつ、子どもの話を途中で打ち切ったとしたら…。

そういうことを繰り返してしまうと、子どもは「この人は口ではいろいろ言っているけれど、本当は私のことを大切に思っていないんじゃないかな。」と感じてしまう可能性があります。そうすると、その人の本心を疑うようになり、言葉を信じなくなって、その人から見ると「言うことを聞かない」ということになってしまうかも知れないということになります。言葉以上に、表情や言い方がとても大切なものなのですね。

食べる慣れる～増やそう食経験～

にじいろ農園（園の畑）のサツマイモの苗が元気よく葉を増やし、一人一鉢のトマトが青い実をつけ始めました。うさぎ組の稲もすくすく育っています。

園では年間を通して、自分たちで野菜を育てて、食べてみる経験を繰り返します。

6月4日は「カレーの日」でした。昨年度から育てた玉ねぎとジャガイモとニンジンを使ってカレーを作ります。うさぎ組さんが野菜を洗い、玉ねぎの皮を剥き、きりん組さんが野菜を切ってカレーにしました。りす組さんが育てたキュウリで作った浅漬けと、うさぎ組さんが作ったフルーチェも添えられました。この日、日頃は全く口にしたことのないものを初めて食べた人もいたようです。「おいしい。」と言いつつ食べることができて、嬉しそうでした。

子どもは大人の3倍も味に敏感といわれますが、さらに食経験の少なさが「この食べ物嫌い」と認識するといわれています。ですから、食べ慣れることが大事ということになります。

この食べ慣れるということについては、4種類の学習に分類できるそうです。「安全学習」（食べても大丈夫と認識する経験）「嫌悪学習」（二度と食べたくないという経験）「嗜好学習」（また食べたいという経験）「連想学習」（楽しいときに食べたものがおおいかったという経験）です。

栄養は食事からしか得ることができません。御家庭と園での食を通して、よい食経験がたくさんできると、おいしい、また食べたいという気持ちになって、食べる楽しみが広がりそうです。

【今月のキラリ 園での様子を紹介】

～椋鳩十文学記念館見学(年長)～



～カブトムシたくさん誕生～



～はじめてのプール(年少)～



～糸から育てた苗で田植え(年中)～



「牛乳パックにまいた
糸がこんなに大きくな
ったよ。」
「泥んこ踏んで田んぼ
もできたね。」
「田植えを頑張ろう
ね。」
「これが、ほんとにお
米になるのかなあ。」
稲は順調に育っていま

「あつ。すごい。飛んだ飛んだ。」
「ほくもやってみよう。」
「小さい水鉄砲でも飛ばせるのか
な。」年少さんもプールでいろんな遊
びが広がっていきます。

～園医の先生のお話と親子歯みがき教室～



～ファミリー参観親子製作～



～6月の園開放♪「どれみふぁランド」～



10名の未就園児の皆さんが、お家の方と一緒に園に来てくれました。
しゃぼん玉あそびや砂場遊びなど、園のみんなと一緒に、たく
さん遊びました。

～カレーの日～



～県警ひまわり号交通教室～



全ちゃんと3つの約束
をしました。
模擬横断歩道では、
「とんとんとまれ」「右
左まあた右」「はじめは
右見て渡ります。右右右
右。」「左左左左。」「
ありがとうございます。
」と練習して、渡り
方を覚えました。



「玉ねぎ、どこまでむく
のかな。」
「わたしたちがみんなで
切った野菜をお願いしま
す。」
「きりん組さんが作っ
てくれたカレー、おいし
う。」「おいしくなあれ
ってパワー送ったから、
絶対おいしいよ。」